

新しい人を着る

2023年9月10日

エペソ人への手紙 4章17～24節

序：4章から生活編・実践編

1節「召されたその召しにふさわしく歩む」 ⇒ 17節以降
教会全体はキリストによって組み合わされ
分に応じて働くことにより
成長し
愛のうちに建てられる

I. 古い人を脱ぎ捨てる

生まれながらの人間（アダムの子孫）

異邦人（神を知らない）

(1)むなしい心 = 目的がない、無益な

(2)知性の暗さ = 霊的ことがら、神を知ることへの無関心、無知、鈍感
頑固な、石の心（堅く、冷たく、いのちなし）
無感覚：良心が鈍い、罪の自覚がない、主のさばきを嘲笑

⇒ 神のいのちから遠く離れている

(3)道徳（行為）における暗さ = 好色に身を委ねる（引き渡す）
知性の暗さの表出、結果 不潔な行いをむさぼる ⇒ 破滅

(4)人間を欺く情欲によって腐敗の一途をたどる

II. 新しい人を着る

新生した人（罪の悔い改めとイエス・キリストに対する信仰）

神の子ども（父は天の神、神に知られ、神を知り、神と親しく交わる）

(1)霊と心において新しくされ続ける

霊 = 神を知る、神と交わる（人間にしかない）

心 = 知性、感情、意志

創造時、人間は神のかたちに造られた（義、聖）

ところが、神に背いて墮落、神のかたちは壊れ、汚れ、歪んだ
真の回心により、根幹まで新しく創造された（初めの創造以上）

義 = 人に対する正しい行為

聖 = 神に対する " 真理に基づく

(2)新しい人を着る

神がかたどり造って、着せてくださる

古い人と新しい人を重ね着するのではない

" 切って縫い合わせるのではない

古い人を脱ぎ捨てて、新しい人を着るのである

一掃して、まっさらをまとう

Ⅲ. きよい生活（聖徒の歩み）

(1) 新生した者は聖化の歩みに入る（内住の御霊が導いてくださる）

キリストに似る者へと成長

キリストの身丈に至るのがゴール

(2) イエスを模範とする

キリスト（神性・贖い主） = 信じる

イエス（人性・模範） = 習う、学ぶ、倣う = まねぶ

生活上の具体的ガイドブック = 模範としての救い主の人格と言動

(3) イエス・キリストご自身を学ぶ（∴真理）

〃 についての何かでなく

又聞きでなく、直に

Ⅳ. 結び

(1) 救いへの召し、教会を建て上げる主のしもべへの召しの前提は、古い人を脱ぎ捨てて、新しい人を着ていること（神の御業）

最初に神のかたちに創造された人間が、自由意思を悪用して神に反逆し、自分で神のかたちを破壊し、神との交わりを断絶し、死をもたらした

人間は自分の力で回復できない ∴ 神による再創造が必要

(2) 新しく生まれるにも、生まれた後成長するにも、イエス・キリストなくしては不可能 信仰者の、また教会の誕生～完成の主権者は主である（救い主、模範）

(3) ほんとうにキリストを学んでいるかどうか（信仰者と称していても真偽がある）
新生（狭義の救い）だけで聖化（栄化＝広義の救いーに向かう）を軽んじるなら、主の弟子とはいえないのでは？

(4) クリスチャン生活 = 主とともに歩む生活、主イエスを模倣する生活
イエスさまなら、どうお考えになるか、何とおっしゃるか、いかに行動されるか、自分の想像や思いによってではなく、聖書に照らし確認する

(5) それぞれの成長・聖化が教会全体に影響と結果をもたらす